

まったから、よかったですけれどもね。

F：そうですね。

Int：じゃあ、そこに辿り着くまでは、すごく大変でしたよね。だって、産後2カ月で復職なさったっていうことは、その間に、全部いろいろなさったんでしょうし。

F：そうですね。

Int：お母さんの健康状態は大丈夫ですか。

F：私は、割と産後はあまりつらい状況にはならなくて、一人目も二人目も。体のほうは大丈夫です。

Int：なにか不安なこととか、いろいろ困ったときに、ご身内に相談なさるといことですが、今は十分その体制というか、状況で満足してらっしゃいますか。こういった保育園に預けると、その保母さんなんかとお話をしたりっていうこともできるかと思えますけれど。(アンケートの)同じ年ぐらいの子どもを持つ母親と話す機会がないというのは、これはやっぱり預けてる同士で会うのって、お迎えのときぐらいですものね。

F：今は、上の子が幼稚園に行っているんで、幼稚園の父兄さんで下の子がいらっしゃるお母さん方もおりますし、仕事柄子どもたちと接する仕事をしてるので、そのご父兄さんとお話したりとか。

Int：(職業欄に)講師って書いてありますけれども。

F：子ども向け音楽教室の。なので、ご父兄さんっていうのは、自分の身近にお客さんがいますので。

Int：そうすると今は、順調に子育てをなさっている状況ということですね。(アンケートでは)「元気がなく疲れを感じたことはたびたびあった。」ということですが。

F：やっぱり産まれて数カ月は、まとまった時間で眠れないですからね。

Int：そうですね。おむつ変えたり、おっぱいあげたり。そういうことですね。

F：疲れたなと思うときはありますけど、震災のことではないですかね。

Int：では、上のお子さんのときもそうで、一般的にある疲れっていうような解釈でよろしいですか。

F：そうですね。自分でもそういうふうな解釈をしていたので。

Int：頭痛とか頭が重いとか、これも。

F：偏頭痛はもともとあって。

Int：もともと偏頭痛がある。そうですか。

F：環境のせいではないんだろうなとは思いますが、でもやっぱり車で出て歩いたりしていると、上の子が咳き込んだりとか、その日の夜に頭痛が起きたりすると、放射能とか空気に何か問題があるのかなとちょっと思ったりしました。

Int：放射線量を毎日神経質に提示されていましたが、お子さんを持つ親御さんにしてみたら、それはもちろん気になるところで当然だと思いますけど。

F：それを気にしたら、きりがいいのかと思うんですけど、やっぱりこの子たちが大人になったときに、一体どういう病気を発症するのかっていうデータがない中で、人体に影響がないっていうふうにテレビでおっしゃっているのは、ほんとに信じられるものなのかなって思うので。食材も申し訳ないなとは思いつつ、産地で選んだり、その辺はまだ神経質になるところかなと思います。

Int：そうですね。食材選んで書いてらっしゃいますね。また、避難所でもそういった衛生面で大変な思いをするとか。

F: 皆さん、いつまであの状況で暮らせたのかなと思うんですけど。トイレとか流れないのはもちろんわかっているんですけど、でも普段よりも神経質になっているので。みんな知らない方がしたのを見ながら、自分も排泄しなくちゃいけないという状況とか。あとは、廊下には大型犬がたくさんいたので、ちょっとそこは避けたいかなと思って、途中から別な階にあがって教室の中のほうに入ったんですが、そうすると今度は、家族同様に暮らしている小型犬を連れていらっしゃる方がいてですね。哺乳瓶を持っているお母さんの隣に、その小型犬を連れてお家の方がいらっしゃって、子どもたちが給食を食べる机の上でその犬を暮らさせているという、その状況はもう…。またちょっと大きな地震とか来たときに、あの状況になるのかなっていうところで、ぞっとしますね、犬も洗えない状況なのに。

Int: 動物が好きな方は、不衛生とか思わないみたいですね。感覚の違いというものです。そのあとも、余震がかなり何回かあったみたいですけど、そのときもご自宅に…。

F: 何度かその、主人の県外の実家と行き来していて、寒かったんで電気が通らなくても冷蔵庫の中身はあんまり心配じゃなくて、あちらから買ってくれば、発泡スチロールとかに入れておけば、食材の確保はできた。

Int: 3月だったから、ちょうど気候としては、食材に関してはそれほど心配いらなかったんですね。

F: 行ったり来たり的生活をしていて、ガソリンもなかなか手に入らなかったんですが、ありがたかったのは、その主人の実家の県外に行ったときに、石巻から来ているっていうことを言いますと、もう何キロも車が並んでいるそのガソリンスタンドの先頭に入れてくれて、満タンに入れてくれたりってというのが。

Int: 涙出ますね、その聞いただけでも。

F: そうなんです。そういうことにすごく救われましたね。

Int: 最近、こういった支援があればいいのになんていうことを伺っていますが、今となって思うことで、他にもしございましたら。

F: 万が一の時、生まれた子のおむつとかミルクとかがあるのであれば、ちゃんとありますよっていうことを伝えて欲しいですね。

Int: そうですね。いずれかのちゃんとしたところから。

F: その情報もないので。おむつとかミルクとかありますから、そのときは来てくださってというような情報提供ですね。

Int: ここにありますとか、ここに取りにければ大丈夫です、とかの情報ですね。産後の新生児訪問で助産師は伺っていますか？

F: 保健婦さんがいらしゃったんですね。そこで質問してもうなずいてくださるだけで、アドバイスがない。もしかすると、助産師さんとかのほうで、私たちがいろいろと納得できるお話を聞けるのかなとちょっと思いますね。

Int: 通常は、助産師が行くことが多いですけどね。混乱していたんでしょうかね。被災地で役所もすぐくごったがえして。Fさんに、それが当てはまるかどうかは別なんですけど、応援に来ていた他県の保健師さんとか助産師さんが行ったりというような状況が発生していたので。わかりました。情報発信ということですね。今は、お子さんもすくすくと育ってらっしゃいますね。

F：下の子は、おかげさまで丈夫に生まれてくれたので、ほとんど熱を出すこともなく。どちらかと言うとお兄ちゃんのほうが、生まれたときに心臓に穴が開いていて、経過観察で小児科に通ってましたので、お兄ちゃんのほうが心配でしたね。

Int：それも手助けが必要であれば、ちゃんと受けていらっしゃいますか？

F：震災のときに、かかりつけの小児科が大きく被災したんですね。でも、ちょうどエコーの診察予約が震災後に入っていたんです。当然、病院はやっていないだろうと思っていたんですが、それでも行って見たんです。そしたら、その先生方とスタッフの方々が道具の貸し出しをしまして、お会いすることができたんですね。病院自体はお休み中だったんですけど、エコーの機械は、2階にあって大丈夫だったからってということで、その時、先生がエコーでみてくださったんですね。そしたら、穴がふさがっていて、もう大丈夫だからってということで。病院の先生の温かい支援もありまして、震災中に経過観察も終了できたという感じでしたね。

Int：わかりました。今お兄ちゃん6歳。来年小学生。

F：上のほうが1歳になるかならないかぐらいのときに、閉鎖したようだというのではあったんですけど、心雑音が残っているということで、経過観察していたんです。音のほうも大丈夫っていうのが、その震災があった、あのときに先生がみてくださって。

Int：それこそ、下のお子さんを妊娠中から、ずっと上のお子さんのことも心配でしたね。

F：心配でしたね。

Int：でも結果がね、それは良かった。

F：今回、市町村の支援というのがあまり感じられなくて。それ以外の方々とか病院の先生方とかの、物ではない支援ですね、こちらのほうがより多く感じました。

Int：わかりました。ご主人とか、ご家族も育児とか家事を手伝ってくださるんですか。

F：そうですね。

Int：それはうらやましい。おんぶして下さったぐらいだから(笑)。

F：最初、「おんぶするからいいよ」って言われたんですけど、私のほうが躊躇して、「おんぶはちょっと…」って言っていたんですね。でも、やっぱりあの水位を見ましたら…。

Int：3月で寒いし、冷えますしね。

F：水位を見てから、「じゃあ、ちょっとお願いします」という感じでした。

Int：こんなふうにご主人に対して満足だと言って、チェック入れてらっしゃる方ってあんまりいらっしやらないんですけどね、うらやましいです(笑)

F：子どものことには協力的なんです。

Int：そうですね。いいですね。今日は、お時間を作って来ていただいて、本当にありがとうございました。

Gさん：20歳代後半 経産婦

分娩日：2011年5月中旬 分娩時週数：39週

Int：よろしくお願ひします。色々とお産にまつわることとか、子育てのときなどのご苦勞っていうのをたくさんお話をいただいて、それらをそのままストレートにまとめて、きちんと国なりに、こういう支援をして欲しいと、今後、同じような震災が起きたときに、妊婦さんをこのようにサポートしてもらいたいというような声をお届けする役目をしております。まずは、震災のときの状況から教えていただけていいですか？

G：震災当日なんですけど、私は第二子を妊娠してまして、N病院でもともと出産予定だったので、ちょうどそちらで妊婦健診を終えて、持病のほうの科を受けようかなって、待合室で待っていたときに地震が来たんです。

Int：差し支えなければ、そのご病気というのは。

G：私は喘息を持っています。

Int：喘息ですね。そうですか。そのときの状況は、お話できますか。

G：大丈夫です。何年か前にも地震の経験はしているので、そのときは、「あ、地震が来た。」というのはわかったのですが、尋常じゃないくらい揺れまして、N病院自体がグルグル回るような感じで、耐震装置が働いたらしくて、遠心力でとにかくグルグル回るような感じで揺れて揺れて。その揺れてる間に、すぐに携帯で情報をチェックしまして。主人がちょうど夜勤だったので、上の子を預けて、上の子とおばあちゃんと主人をお家に置いて、私ひとりで出てきたもので、主人に確認したら、被害はないということだったんですけど、栗駒という場所が震度7というのが表示されまして、また地震が来たんだなという感じでした。診察の順番が、ほんと次だったので、診察受けれるのかなと思ったんですけど、その場で帰されまして。帰るといっても結局、余震が続いてましたので、私は妊婦の勘で1時間留まったほうがいだろうということで、車のラジオを聴きながら、1時間待ったんです。その時は、健診が終わったらご飯も食べて、ガソリンも入れようと思っていたので、手元に水も食料もなく、ガソリンも4分の1しか入ってなくて、それでは大変だということで暖房は切って、あるもの全部着込んでラジオを聴いていたら、津波が女川のほうで6メートル来るというのを聞いて。ただ、6メートルと言われてもピンと来なくて、いつもそういうふうに警報がなっているんですけど、実際に来たことがないので、6メートルの津波というイメージができなくて。でも、もしかして大きいのが来るんじゃないかなっていう感じでは思っていました。1時間たったあとに、16時ぐらいに、当時、石巻の鹿妻に住んでいたんですけど、じゃあその自宅に帰りましょうということで車を走らせたんですけど、ちょうど大橋を過ぎたあと、トンネルがあって、トンネルをくぐり抜けたときに、すごい大雪が降って来たんです。それで、周りがまったく見えなくなってしまったので、これ以上先には行けないと思って、引き返して、私は（H市）Y町に実家があるので、Y町に向かったっていう経緯です。

Int：なるほど。じゃあ、Y町のほうには戻れたんですね、夕方までに。

G：夕方というか、そうですね、混んでましたけど幸い事故が起きることもなく、なんとか流れをぬって、無事にY町の実家にたどりつきました。Y町の実家のほうは、海から3キロ離れているので被害はなかったんですけど、ほんとにギリギリすぐ目の前まで津波というか、水が来たっていうのはあります。

Int : G さん自身は、それを見てますか？

G : 私は見てないんですが、仙石線の線路があるんですけど、放送で線路超えて来ましてって。ほんともう一步のところまで水が来ていたみたいなので。

Int : ご実家のすぐ目の前まで水が来ていたと。

G : そうです。私自身は見てませんが、そういうふうに、どこへ行っても水浸しという話は見回りに行った両親から聞きました。

Int : そのとき、妊娠何カ月だったんですか？

G : 妊娠 8 カ月ですね。

Int : 妊娠 8 カ月。そうすると、車を運転というのは、その 8 カ月の体で自分で運転して？

G : そうです。

Int : なるほど。自宅に戻るその大橋の先っていうのは、津波の被害に遭われたところですね。

G : そうですね。そこに、津波が来ているかどうかは、全く知らなかったんですが、もしその橋を渡ってトンネルを抜けて、また橋を渡るんですけど、その開北橋というところにさしかかっていたら、津波を見たかもしれません。

Int : そういう状況ですね。

G : そうですね。その先を過ぎると、津波で浸水した場所にあたるので。

Int : その地震のあと、多分どこの病院もなかなか健診なんかをしてくれなかったと思うんですけど、お家での生活の状態と、それからそこで不安だったこと、何かやって欲しかったっていうのがあれば教えてください。

G : そうですね。3 日間ぐらいは、自宅と連絡が全く取れなくて、上の子と夫とおばあちゃんの様子が全くわからなかったので、私が帰ってメールで伝えて、そこで途切れてたんですね。なので、主人のほうは帰ってくるのを待っていたらしく、お互い心配していたんですけども、3 日後に主人が、浸水した場所を胸のあたりまで水に浸かりながら、私を探しに来てくれたんですね。そのときの感動と、みんな無事だったっていうのが…。私は幸い、親族や親戚で亡くなった方がひとりもいなかったんで、そこでホッとしたことを覚えています。

Int : ご主人が、水に浸りながら探しに来られたっていうのは、Y 町にいてわかりましたか？

G : それはですね、Y 町に主人が着いて、実は周りはこういうふうになっているんだって。どこで津波が来たっていうのを知ったかという、実家の近くの中学校に一時避難したので、そのときに、津波が来てかなりの方が亡くなったっていう被害があったのは耳に入って来たので。

Int : その日のうちにですか？

G : そうです。地震があった当日にその話を、人づてというか、その周りでの話が耳に入って来たので、あ、津波が来たんだなっていうのはわかりました。

Int : そのとき、お家の状況や、ご主人とか、お子さんたちの情報っていうのは、予測できましたか？

G : いいえ。全くわからなかったんですが、海からも離れているように私は感じていたので、すぐ海沿いの側って言えば、側だったんでしょうけど、家からは海が見えないので、大丈夫だろうとは思っていました。連絡が取れなかったので、日が経つにつれて、ラジオとか聞いていて、どこまで津波が来たとか被害がだんだんわかってきたときに、もしかしたら…という思いもあって、お腹の子と 2 人で生きていくっていう決心をしたときもありました。その、主人が来る前までは。

Int : 妊婦健診をした直後で、そのときには赤ちゃんが元気だったということで安心しておられたので、多分もしかするとそのように考えられたのかもしれないですが、そのあとの健診は、全く予測も立た

なかったですよ。

G: そうですね。私は、N病院に通っていたっていうのがあるので、この次はこの時期って言われた時期は過ぎましたけれども、電話も通じたので、思い切って電話してみたら、受け付けますって言われて。震災後1カ月半ぐらい空いてから、4月30日だったと思いますけれども、よく覚えているのは確かそのあたりに、お願いしますって電話して。ライフラインがちょっと復活してきて、矢本のほうの状況が落ち着いて来た頃に、じゃあ電話をしてみましょうということで電話をしたら受け入れてもらえました。

Int: そこで、安心されたっていうことですね。最初からN病院に通っていたので、なんとかなるだろうという安心感はあったということですね。

G: そうですね。

Int: あと、あのときは、全部ストップしちゃったと思うんですが、妊娠中で生活状態なんかはどうでしたか。

G: 幸い私の場合は、自分の実家が残っていたので、周りにサポートしてもらって。毛布とか食べ物とか、そういうものもありましたし。

Int: 食事なんかも大丈夫でしたか。

G: 実家がたまたま自宅で飲食業をやっております、食べるものはあったので、当日食べられませんでしたとか、3日間食べられませんでしたっていう話を聞きますけど、うちはラッキーなことにそういう困ったということはなかったですね。たまたまお風呂の水も汲み置きしてあったので、そういうのを手洗いとかに使ってみたり、石油ストーブもあって、うちはプロパンガスだったので、ライフラインが止まってもなんとか生活はできたんです。

Int: なるほどね。大丈夫だったんですね。そのあと出産されたときも、普通のような出産の経緯をたどって。

G: そうですね。

Int: その後、実際にお子さんを育てていくときに、震災があって何か気になったことっていうのはありますか？

G: 上の子なんですけれども、津波ごっこをやっています、この子は津波を目の当たりにしているので、母である私が実際に津波を見ていないもどかしさと、わかってあげられないもどかしさと、いつも側にいたのに、そのときいなかった、守ってあげられなかったっていう後悔も少しあったりして。どうしてもわかってあげることができず、ずっともどかしさがあって、結構、子どもの心のケアのセミナーに参加して、こういうふうによればいいんだよっていう情報を集めたり、実際に本人を連れて行って、遊びながらケアをしたりして、気付いた頃には、それも落ち着いたので…。震災当時は1歳11カ月だったので、なかなか話ができなかったっていうのもあるんですが、話ができる歳にもなってきましたし、津波ごっこをして、ある程度整理をするんだよって、そのケアの人に教えられて。それでケアをするというか、遊びながらなんとかおさまっていったっていう感じですね。

Int: どのぐらいのときまで、津波ごっこをされましたか。

G: 津波ごっこは2歳半から3歳前ぐらいまでしていて、今も上の子がそのKというところに遊びに行くんですけど、そうすると当時のことを思い出すらしく、当時の状況をこの子なりに説明するんです。唯一犠牲になったといえば、飼っていた犬で、その犬のお墓がKの家の敷地内にあるので、そこに行くたびに、ワンちゃんが津波で亡くなったんだよねっていう話はしますね。

Int: 上のお子さんのことが心配で。そうしますと、下のお子さんを育てるときに、例えば物が足りな

いとか、ミルクで苦労したとか、そういうことは何かおありですか。

G: 私は、幸いなことに周りのサポートが強かったので、イベントサークルの代表者さんとお友だちで、定期的にミルクを送ってもらったり、無くなりそうだと思った頃に、自分で、困っているんですって感じで、ママ友にお願いするとミルクが集まったりして、あまり自分でおむつもミルクも買うことなく助かりました。

Int: それは、上のお子さんをお育てになっているときに、そのイベントサークルっていうところに所属されていた。

G: そのイベントサークルとしては、震災後にできたんですが、代表者の方がもともと私とママ友と呼ばれる友だちだったので、すごい心強くて、悩み事や困った事は全部そちらに情報を流して。その方も妊婦さんで、同じときに次男を出産されているんですけども、私たちは大丈夫だからってことで、出産してから忙しいのにも関わらず、同じ被災者なのに、代表者さんはそのあとすぐサークルのほうに復帰しまして、活動をしていただいたおかげで、物資が集まって来たので。そういう子育てサークルや、他のところでも石巻で遊べるよっていうところに行けば支援物資はありましたし、そこで情報交換して何か困ったことないかと言われて、ある保育士さんと出会って、その保育士さんにミルクとかおむつを持って来てもらったりして。私は幸運だったなと思います。すごく助かりました。

Int: そのサークルは、なんていうお名前なんですか。

G: 石巻ベビースマイルという。

Int: 今も活動されているんですか。

G: 今も精力的に活動されてまして、私がちょっとしたこととかも、意見を取り入れてくれて、すごく反映してくれるので、私も、もう少し子どもが育ったら、お手伝いしたいなと思っているサークルのひとつです。

Int: そうですか。イベントサークル石巻ベビースマイルさんというところですね。そういうような子育てをしているお母さんたちがすごく助かるようなことってというのが、もっと多くの子育て中のお母さんたちに知れ渡るためには、あるいはその仲間に入ってもらうためには、どんなことが必要だと思いますか。

G: 私は、友だちがそういうサークルをしているので、スムーズに入っていけましたが、もし何もない場合であったら、入っていけなかったかなと思います。もし、引っ越ししてきたばかりで、震災に遭われた方であったら、ぜひその勇気を持って、サークルを調べて、電話をしてみるとか、問い合わせをしてみる、そのサークルに参加してみる。そこに行くのと支援物資をもらえたりしていたので。あとは、市の健診のときにも物資で、おむつとか、おしり拭きとか、子供服とかをもらえたので、そういう健診とかも積極的に怠らなくに行くようにすると、情報を得られるのではないかなと思います。

Int: 健診などもすぐには、定期的にやっていたものもできなかったんだろうと思うんですけど、それでの焦りとか、ご心配とかはなかったですか。

G: 幸い私は、上の子が当時1歳11カ月で次が2歳半健診でしたし、末の子に関しては、震災からだと半年はありましたので、何カ月かかったとしても、再開するだろうというのはあったので心配はなかったです。

Int: では、上のお子さんがお父さんと一緒に取り残された状態で、お母さんと離れたっていうことで、お父さんが子どもさんに対してどんなことを心配りしていたかなんていうのは、わかりますか？

G: 主人は、結構べったり側にいてあげたみたいなんですけど、まだ話もできないのに、おじいさんおばあさんも側にいたので、ちゃんと上の子に説明しないまま、私を探しに来たらしいんです。そうし

たら、独りになってしまったので、朝から晩まで泣いたらしく、今は預けても大丈夫なんですけど、ママっ子、パパっ子で、べったりだったもので、不安にかられたらしくて、もうそれでお腹をくだしたというか、うんちの色が少し赤くなったらしくて。すぐ病院に連れていってもらって精神的なものって言われたらしくて。それを聞いたときに、悪いことしたなと思って。

Int：お父さんが説明しないで、いなくなっちゃったのね。

G：パパはそう思っはなかつたでしょうけど、やっぱり話はできないけれど、理解はできる歳だったと思うので。パパ自身も焦って、ゆっくり話ができなかったっていうのと、主人のほうの両親が揃っていたので、いつも一緒に暮らしているから大丈夫だろうと思って預けたと思うんですが、尋常じゃないときだったので、不安で仕方がなかったのではないかなと思います。

Int：Gさんから見て、ご主人の子育ての手伝い状況とか、家事の手伝い状況とか、ご夫婦関係なんてどんな感じですか。

G：そうですね。震災後、仮設に入ったときは結構お互い不満があつて、ぶつかり合ったりしたんですけども。

Int：震災の直後。

G：そうですね。結局、住むところの不安が2人とも大きかつたので、絶えず意見が対立したこともあつたんですけども、今は、落ち着いてお互いを尊重して、笑顔で暮らしていただけるから、以前に比べていいかなと思います。

Int：差し支えなければ、お住まいでぶつかり合つたっていう、それはどんな内容ですか。

G：そうですね。仮設ができるまでの4カ月間、私の実家で暮らしたんですね。私は自分の実家だったので良かったんですが、主人は、他人の家で気を使って、気を使っての暮らしだったのと、私が早産とかしないように、なかなか上の子と一緒に遊んであげられなくて、全部主人に押しつけていたというのもあつたので、主人は穏やかなほうなんですけれども、やっぱり疲れがあつたんだと思います。

Int：そういったものをダイレクトに妻に話をしたり、態度に出たりっていうのは、そのときはあつたっていうことですね。

G：そうですね。疲れたって主人が言っていたんですけど、休ませてあげられなかつた。自分は、そのときはもう、次男を産んでいる状況だったので、余裕がなくて。私も寝不足なのに、「あなたは睡眠取れているでしょう」みたいな感じで。「私は、こんなに疲れているのよ」みたいな感じでアピールしていたので、ぶつかり合つた。お互い、寝不足が一番の原因だったと思う。

Int：それでは、震災から4カ月ぐらいして仮設に入られて、今はお子さまと4人暮らしですね。

G：そうです。

Int：津波の前はご両親がご一緒だったわけでしょう。

G：そうですね。震災前は、私たち3人家族プラスお腹の子と、主人の両親と、あと主人の弟がいたので、結構大家族と言えば大家族。

Int：今はそうすると、ご両親とは別の仮設に入っているということになるわけですね。

G：はい。

Int：やっぱり住まいが、いろんな問題にはなりますね。お子さんの遊び場所は、今ありますか。

G：仮設団地の中では全く公園がないので、その仮設の周りを散歩することはできますが、目を離しても安心して遊べる場所はないですね。

Int：周辺には同じような年頃のお子さんたちはいらっしゃるんですか。

G：いるというのがちょっとわからなくて。上の子は、お友だちが近くにはいない状況です。

Int：お互い仮設の中だと行き来をするので、どこにどのぐらいのお子さんがいらっしゃるかっていうのは？きっとたくさんいますよね。

G：いえ、ところがですね、わからないものです。

Int：そうですか。

G：そうです。団地が多すぎて、その並びではわかりますが、一個前の列とかは全くわかりません。仮設見守り隊っていう、見回りの人がいるんですけど、その人に聞いて初めて、ここここにいるんだよ、っていうのがわかるので。散歩のときにも会いませんし、こんなに仮設があるのに子どもの数ってこんなに少ないもんなのっていうぐらい、散歩する時間や活動する時間がずれているのか、家にいないのか、それともずっと家にいるのかがわかりません。それは、仮設に入った当時から、変わらないです。

Int：今も変わらないですか。

G：そうですね。だから、さっきも言ったように自分たちでイベントに参加しない限り、孤立する可能性はあると思います。

Int：今イベントサークルのほうに、ある程度参加できてるっていうことなんですけれども、その他に育児をするにあたって、相談するところはございますか。

G：私は幸い、実家がY町で近く、車で30分なので、よく実母に電話したり、おばあさんに何か困ったら、頼ったり、子どもを預けたり。

Int：ご実家のほうのおばあさんね。

G：子どもたちから見れば、ぴーちゃんにあたるんですけど、ぴーちゃんにお願いできるので。それと、やっぱりママ友が大きいですね。困ったときに相談し合える方がいて、言えば情報をもらえるのでありがたく思っています。

Int：そうすると、実際お子さんを預かったりとか、お子さんを遊びに出したりとか、そういうようなことっていうのはママ友と行っていますか。

G：そうですね。保育園とかにはまだ預けていなくて、現在は2人とも家庭で育てているので。

Int：あんまり外にはお願いはしていない。

G：今は、お願いしていない。お願いするとしても、両家のぴーちゃんが健在なので、ぴーちゃんにちょっとだけお願いするっていう。

Int：何歳ぐらいの方ですか。

G：80代前半ぐらい。

Int：80代ね。すごいな、元気ですね。どんな人たちから協力をもらおうと、とても子育てには助かるんだけどっていうようなことはありますか。

G：それはボランティアの方が少し回っている時期があって、住んでいて一回だけボランティアで幼稚園の先生とか、保育園の先生が来てくださって、一時間だけ子ども達の手が離れたときがあったんですけど、それだけでもすごく助かったことを覚えています。なので、ボランティアの方でそういう信頼できる保育士さんや幼稚園経験のある人が来ていただけると、お外でちょこっと一時間ぐらいお散歩するだけでも、だいぶ助かるので。

Int：その道の専門家が、その道のことを教えていただくと一番いいと、あるいは手を助けてくれるといいということですね。

G：そうですね。専門の方じゃなくても若い大学生とかが、ボランティアで来てくれて、この子が人見知りしないで、いっぱい遊んでもらえるのであれば…。どんな方でもいいので、その当時は、誰か手

伝って欲しいと思いました。

Int：今は、津波ごっこはしませんか。

G：津波ごっこはいつからか忘れましたが、今はやってないです。理解はしているようで、「津波が来たときは、僕はおばあちゃんの背中におぶられていたんだよね」とか言うんです。さっきも言いましたけど、「津波来たときに、ワンちゃんが津波で亡くなっちゃったんだよね。だから、ここに眠っているんだよね」という話はします。

Int：時々、そのお家のほうには行かれるんですか。

G：毎週日曜日は、そのKの実家のほうに遊びに行くので。

Int：今そちらにはご両親が住んでいる？

G：そうですね。震災の後から、おばあさんも住んでいて。以前は、住んでいなかったんですけど、津波で家が全壊になって。子どもたちからみるとぴーちゃん、Kのぴーちゃんって呼んでいるんですけど、鹿妻のぴーちゃんと両親の3人と、主人の弟がいて、4人で暮らしています。

Int：あとは、震災のときの一番大変なときと、あと今の子育て中の大きい違いってというのは何かありますか。

G：私の場合は、今は子どもたちがちょっと大きくなってきて、少し余裕ができたから、リラックスして子育てしたり、可愛く思えたりしますが、去年の今頃だと、もうおっぱいだミルクだって、下の子はやってましたので、全然余裕がなくて、きつく上の子にあたったこともあります。

Int：なるほど。今少し余裕が出てきたってということですね。

G：そうですね。

Int：今は概ね余裕を持って、ちょっとは息抜きしながら、子育てできてるかなって感じ。

G：そうですね。それは周りのサポートがあるからです。主人が今日みたいな集まりのときに、1人を見てくれたりして、1人見てもらうだけでも全然違いますので、まずは、主人のサポートが大きいことと、両家の両親、ぴーちゃん達のサポートが大きいことですね。それに、去年の今頃、自分が情緒不安定になりまして、心のケアみたいところに相談して、専属の保健師さんについてもらって、何かあればその保健師さんに専門的なこと、自分の心、なかなか人に言えない感情というか、その出来事を困ったときに全部伝えているので、その保健師さんが、私の中では大きいかなと。家族以外にその専門の保健師さん。

Int：同じ保健師さんがずっとつないでくれますか。

G：はい。そういうふうをお願いしています。

Int：石巻の方ですか？

G：はい、石巻の方です。

Int：去年のいつぐらいに？

G：10月17日あたりから半年間、主人が単身赴任という形になりまして、仮設での生活もまだ1年目で寒い冬も越せるかどうか、すごい不安になって、一番サポートしてくれていた主人もいなくなるという事でパニックに陥りまして、そのときから相談をし始めました。

Int：なるほど。ご主人はどちらのほうに単身赴任だったんですか。

G：宮城県のI市のほうに。

Int：じゃあ、ちょっとすぐにというわけにはいかないですね。

G：そうですね。

Int：今はもう落ち着かれていますか？

G：そうですね。主人が今年の4月に帰ってきて、半年経ったことと、今年の8月ぐらいから、保健師さんや心のケアの場所など、いろんなところで相談して、自分の中で考えをまとめた結果、心療内科にも2カ月前から通ってまして、薬をいただいているので。

Int：今の2カ月前。

G：そうです。だから、8月の末あたりから通い始めていますので、その途端調子がよくなってきて。

Int：なるほど。じゃあ今も薬を飲んでいるんですね。

G：服用しています。

Int：一番ひどいのはなんですか、眠れないこと？

G：イライラすることですね。子どもにイライラすると、もう怒鳴ってました。このままだと虐待してしまうので助けてくださいって、よく周りに訴えてました。

Int：そうです。ぜひそういうようなアピールをしてください。でも、今までお話を伺った限りでは、お子さんのわずか1歳ちょっとのときの津波を、その体験をきちんと子どもなりに整理している、津波ごっこのお話とかね、それをそのときに共有ができなかった母親としてのもどかしさとかね、そういうようなものがすごく客観的に整理されてきているので、いいお母さんですごく配慮してるんだなってというのが、伝わってきたんですけれども。

G：ありがとうございます。

Int：この間にそういったイライラがあったっていうのは、想像できなかったですね。今お話を伺って始めて。

G：ありましたね。主人がいなくなってから、上の子どももちょうど2歳でイヤイヤ期が始まりまして、重なったんですね、ちょうど。下の子ども落ち着いてきたけれども、感情が芽生えて来たとき、上の子どももイヤイヤ期で、パパはいない、私ひとりで見なきゃいけない。結局、一時避難で、実家に半年間戻ったんですが、実家のほうが自宅でレストランをやっているんで、やっぱり子どもと一緒に住む環境ではないんです。私の父親が、気にしないでって、具合悪くしてパニック起こしたんですけれども、それを起こすよりは側にいてもらったほうが安心だしということで、甘えさせてもらったんですけれども。

Int：そうでしたか。あとは、今後は、どのようなことがご心配でしょうか。

G：それはですね。今日、こういう場を設けてもらったので、ぜひ訴えていきたいということがありまして。主人と話し合っ、ぜひ誰かに伝えたいということがありまして、今回いい機会だったので、まとめたというか、メモを書いてきたんですけれども。

Int：世帯分離された方っていうのは、たくさんおられるようですか。

G：そうですね。周りはわかりませんが、母親の話とかいろいろ聞いて。うちみたいに同居していて、二世帯ではなく、同一世帯になっていて、震災が来たので、震災後、別々に暮らしましょうってなったときに、仮設はたまたまラッキーで入れさせてもらったんですけれども、義援金の話になったら、以前は同一世帯だったので、そこの分しか出ませんよと言われて。世帯分離してるのにも関わらず…。最初から全部揃えなきゃいけないって、お金もかかるんですけれども。

Int：倍になりますからね。

G：そうですね。それができなかった。そこはちょっともどかしいところがありました。

Int：わかりました。待機児童が多くなってことを書かれてますけれども、これは保育園に入りたいと思っているけれども、なかなか入れられないということですか。

G：今ちょうど保育園の願書受付の時期なんですけれども、他のママ友さんとかの話を知ると、幼稚園

や保育園に結構児童が集まっています、待機児童も多いのではないかって。実際、待機している方も知ってますし、もし入れなかったら、今後どうしようというプランもたてなきゃいけないんだなっていう。

Int：お仕事しようかなというお考えのもとに、保育園に入れたいというようなお話ですか。

G：私の場合は、その精神的なものがあるので、そこにポイントをおいて、保育所には願書を提出したんですけれども。それも、石巻市の保健師さんを通じて、いろんな人に様子を見に来ていただいて、アドバイスをいただいて、元保育士さんの方と巡り会えて、実は働く意志がなくても、例えばお母さんが体調不良とかでも入れるっていうのをそこで始めて聞いたので、入れるかもしれないってことで、じゃあやってみましょうってことで。なかなか、そういう情報もないですね。保育所っていうのは、働く人しか預けられないんだっていうイメージしかなかったもので。勉強不足と言われれば、勉強不足なんですけれども。

Int：そういうのを教えてくださるところがないんですよね、確かに。そうすると、定期的に保育士さんとか、あるいは保健師さんとかが関わるといえるのは、子育てするには、とても楽ということですか。

G：そうですね。もし悩んでいる方がいるのであれば、ちょっと話しにくい内容かもしれませんが、とにかく保健師さんに相談するということがひとつの手ではないのかなと私は考えております。市の保健師さんに、結構冷たくされたと言って、拒絶される方も話では聞くといえるのですが、そういう保健師さんもいるかもしれないけれども、相性が合う、合わないありますので、苦しいとか、辛いとか、しんどいと思っていることがあるのであれば、私のように状況が悪くなってパニックとか起こす前に、ぜひ保健師さんにあきらめずに相談することを、私は進めていきたいなと思います。

Int：なるほどね。診断としては、パニック障害って言われているんですか。

G：その先生は、普通っぽいのではないかっていう感じで、診断名は様子をみながらつけていきますということだったので、まだ名前はついていませんが、まあ、鬱っぽいのではないかと。

Int：今は大丈夫。

G：そうですね。そのアンケートに関しては、お薬飲む前だったので、かなり消えたいとか死にたいとかっていう気持ちは強かった時期ではあります。

Int：1回目のアンケートのときには、大丈夫だったんですね。

G：2回目のときでしたね。感情が、もうどうしようもなくなって、行き詰まってしまって。

Int：そのいったときに、お書きになったってということですね。

G：そうですね。

Int：今は、だいぶそれが落ち着いたと。

G：そうですね。嘘のように、そのモヤモヤとしたものが晴れてきまして、お薬と周りのサポートがたくさんあるんだということで。保健師さんを通して、ヘルパーさんに入ってもらって、食事の用意をお手伝いしてもらったり、心のカウンセリングを定期的に月1回やってもらったりして、整理をしているところなんです。

Int：そうですね。だいぶ整理はできているなという感じでお見受けしました。それから、やっぱりすごい心配されてますよね。

G：そうですね。今後の心配もやっぱり強いです。私たちは、その災害公営住宅とかの対象になっていないもので、今後、仮設を出たらどこに入ればいいのかっていう不安はあります。

Int：仮設はいつまでというようなことは言われているんですか。限定はされているんですか。

G：限定は1年か2年。来年か再来年だと思いますが、結構、追加の工事をしてもらっているの、

住めなくはないのですけれども、最後まで残る感じになってしまうのではないかなって。私達のほうで県営や市営も探しているんですけれども、収入のラインでちょっと引っかけりそうなところもありまして、ちょっとギリギリなんですけど、収入が多くなってみなされた場合…というのがありますね。

Int：現在、ご主人に対してはいかがですか。

G：そうですね。とても頼りになりますね。だいたい遊んでもらったりしているのです。

Int：わかりました。長いこといろいろとお話をさせていただきましたけれども、ご自分の中ではだいぶ整理されてきているかなってというのが、わかりますね。

G：そうですね。仮設も2年目に入るので、このままだと寒いとかそういうのを考えて準備しているんですけれども、準備するって言ってもお金がかかって、限界があるので。凶々しい話ですけども、お金の話になりますが、私たちみたいな人にも、1万円でも2万円でも少しでも回ってきて、戴けるのであれば、もう少し快適に暮らせるのではないかなって考えています。

Int：今朝の新聞に、震災支援の予算は、震災の支援に確実にあてるといような記事が、一番最初に載ってましたので、今までは震災のお金がどこか違うところに使われてるなど、随分と叩かれてましたが、本当に被災した人たちのためにというように、国に対しても希望が徐々に徐々に入って来ているんだと思うんですよ。私たちも、震災のときに妊娠中だったり、産んだばかりだったりしたお母さん達から、全体でこういうような希望がありました、ということをもとめてお伝えさせていただきましたので。どうもありがとうございました。

G：ありがとうございました。よろしく申し上げます。

○さん：20歳代前半 初産婦

分娩日 2011年3月上旬 分娩時週数 39週

Int：アンケートを書いて貰ってますが、内容が重複するかも知れませんが、この研究をして、できれば生の声を集約させて、行政だとか、少し改善できればと思ってるので、色んなご意見を伺わせて頂ければと思います。○さんは震災の時、どこに居られましたか？

○：M病院に居たんですけど。3月11日が予定日で、その4日前の7日に産まれたんで。

Int：産まれたばかりだったんですよね。

○：はい。

Int：M病院に居て、その時、その後どうなったんですか？震災の直後…。

○：1階まで津波が来て、その時、私達は屋上に避難してたんですね。

Int：すぐに、津波が来るって分かってたんですか？

○：来るって分かってたんですけど、そこまでおっきいのは来ないって、看護婦さん達が言ってくれたので。

Int：最初は、3m～6mっていう話だったようですね。

○：そうです。そう聞いて屋上に上がったら、その上にK高という高校があるんですけど、その上に居た人達が、「もう、10mの津波が来るよ」って言うので。そういう会話を上の高校と、その病院の屋上でやり取りしてた時に、もう津波が来た状態だったので。

Int：病院の建物は、何階建の屋上ですか？

○：3階建ての屋上なんです。で、1階まで津波が来たので。

Int：じゃあ、建物の1階は浸かったけど、○さんとか他の人、みんな助かったんですね。

○：そうですね。皆さん、外来の人達も、全員上に上がったので。

Int：そうですね。その時、産後4日目で、その後、かなり大変だったと思うんですけども。

○：私は、出産した時の傷口が痛くて、2、3日歩けない状態の後に、この震災だったので。その後、上の学校のK高に避難して。

Int：そうか、病院は使えないから、もうK高に。

○：そうです。上の方の学校に避難して、そこで待機するはずだったんですけど、今度は内湾火事があったんで。

Int：ずっと、火事でしたよね。

○：そう。火事で火が危ないって事で、警察の方から避難して下さいって事で、安波山っていう山を登る山道があるんですけど、その山道を途中まで登って。

Int：何で登ったんですか？

○：歩いてです。スリッパとパジャマで、子どもを毛布で包んで抱えて。

Int：何人ぐらいで？付添の人とかどなたか居るんでしょうけど。

○：外来の人も居たし、看護師さん達も皆居たので、30人くらいと、あと、近所の避難した人達。もう、車通るとこもないので、歩いて上がって。途中から、八日町っていう市役所の方に下りる道があるんですけど、そこまで歩いて下りて。でも、下りたらもう瓦礫なんですよ。へドロと瓦礫、車は立ってるしって状態を歩いて、Wビルっていうところに、市役所の下建物あるんですけど、そちらに避難して、そこで3日間かな？

Int：そこは避難所だったんですか？

O：避難所だったんですけど、新生児がいるので、私達だけで。キッズルームみたいなところがあったんですよ。

Int：多少、特別に。

O：そうです。カーペットが敷き詰められた部屋があって、そちらの方に避難してっていうか、隔離っていうか、こちらにどうぞっ。新生児が居たので、私達だけ、そちらの方に避難してっていう感じ。

Int：その時、新生児を連れてるお母さんは、そこに何人ぐらい居たんですか？

O：3人です。

Int：Oさんを含めて3人？

O：そうです。3人で、後は外来の妊娠してる方とかも一緒に、そちらの方に避難してたんですけど。

Int：その後、ミルクとかおむつ交換とか、ずっと続きますよね？

O：そうですね。一応、避難する時に、M病院の先生や看護師さん方が、幾つかミルクの缶とか持って来てくれたんですけど、それじゃ、やっぱり足りないんで、2日目だったかな？2日目に市役所の人に許可を貰って、看護師さん達だけ病院に取りに戻ったんです。取りに行って貰って、ある程度確保して、また戻って来て貰ってっていう感じで。

Int：一応、ミルクは途絶えずにあったとしても、少なめでしたか？それとも、十分にあげられましたか？

O：薄めてとか。

Int：ちょっと工夫しながら。いつ途絶えるか分からないですもんね。

O：いつ、どこの場面でミルクが入るかも分からないし、無くなるかも分かんないという事だったので。一応、母乳やれるなら母乳ってなったんですけど、やっぱ、そういう状況だと母乳の出も良くなって、自分も食べれないのでどんどん出なくなって。

Int：その時、Oさんの方とかの食事とか、水とかって大丈夫でしたか？

O：全然、大丈夫じゃないです。

Int：やはり、すぐには入って来なかったですか？

O：その日は入って来なくて、2日目の夜に。そこに20人くらい居たんですけど、おにぎりが4つ。それを皆さん一口ずつで分けて下さいって。なので、ほんのちょっとしか来ないんですよ。でも、看護師さんとか付添の方は、遠慮して、「お母さん達、先に食べて下さい」みたいな感じで貰って、でも、ほんの少し。

Int：その間、水どうしてましたか？水はあったのかな？

O：私達が入院してた病院の2、3階に病棟があったんですね。そこは大丈夫だったので、看護師さん達が戻った時に、冷蔵庫とか、病室から、飲み物とか、ヨーグルトとか入ってたから、とにかく持ってきたからって事で、それを分けて、皆さんで食べたり飲んだりはしたんですけど。

Int：その避難所自体で水とかは。

O：ないです。

Int：その後、ミルクとか水とかどうなったんですか？いつ頃、十分にいうか、補給できる様に？

O：私は、そこに居たのが3日目までだったんですよ。その3日目、いや、4日目か。3日目の夜に、別な避難所で大浦っていう対岸の方からヘリコプターで運ばれて来た人達が居たんですけど、そのお子さん達も増えて来て。

Int：その場所に？次々と来るんですか？

O : そうです。なので、やっぱりあの、まあ。

Int : もっと条件の良いところに移りましょうっていう訳ですか？

O : っていうか、私からしてみたら、小さいお子さんっていっても、3歳とか4歳とかで、もう何も気にしないくらいの年齢なんですよ。

Int : バタバタと動く訳ですね。

O : そうです、わあーっと。それでもう、子供も踏まれたりとかするくらいだし。

Int : 新生児とかちっちゃい子はね。

O : そうです。でも、お母さん方も何にも言わないんですよ。「ちょっと、駄目だよ」とかも言わないので、なんかもう、私も気が滅入っちゃって、次の日に。自宅は流されないであったんですけど、まあ、もちろん。

Int : 自宅は流されないであったんですか。

O : でも、水とかは一切何もないんですけど。

Int : そうか、行っても生活自体はできない状態ですよ。

O : でも、ここに居るよりは精神的に楽になっていう事で、自宅の方に帰ったんですよ。

Int : それで、自宅で生活してたんですか？

O : そうです。

Int : 自宅は、その時どなたが居たんですか？

O : 私の両親と兄が居ました。もちろん、水とかも出ないので、給水所に行って、貰って来てっていう生活をしてたんですけど。

Int : 自宅のところは、少し高いところになるんですか？津波に直接は…。

O : そうですね。いや、でも、家の100mくらい前までは津波が来たんですよ。でも、ぎりぎり、橋があるので、橋で止まって大丈夫だったんですけど。

Int : 自宅までは、どうやって戻ったんですか？

O : 車ですね。確保したんですよ、車の道だけ。なんか1台通れるか通れないかくらい、市内は確保してあったので。

Int : 誰の車で戻ったんですか？

O : 迎えに来てくれたんですよ、実家に居た兄が。

Int : ちょっと立ち入った事お伺いしますが、離婚されてますよね。これは、震災と関係あるんですか？差支えなければ…。

O : ちょっと、若干関係ありますね。

Int : いつ離婚なされたんですか？

O : 今年の2月です。でも、離婚を決めたのが去年の6月くらいだったので。

Int : やっぱり、震災が影響してるんですね。

O : そうですね。

Int : 震災の時、ご主人はどちらに居たんですか？

O : 旦那は、市内に居て、もちろん震災があって、まあ、私の安否確認っていうかに来たんですけど、私をほったらかしっていうか。って言ったらおかしいですけど、ちょっと、別な方に行くっていうか。まあ、お前が大丈夫ならいいやっていう感じで、もう、すぐ居なくなってしまって、あと、それっきり別に。

Int : サポートしてくれるとか。

O：そういうのは、ないので。

Int：震災の前から、そういう傾向があったんですか？

O：いや、でも、うーん、そこまで酷くはなかったですけど。まあ、ちょっと距離感があったかなって感じはしたんですけど。震災以降、全然、連絡も途絶えた状態だったんで。

Int：そうですか。その時のお気持ちとしては、どうでしたか？もう、お子さんの事で精一杯でしたか？

O：もう、そういう人には頼ってられないかなっていうか、いつまでも、気にかけてても、離れていくしなっていくので、もう。

Int：それで、6月頃にはもう、離婚を決意して。

O：そうです。6月に離婚を決意したんですけど、連絡が全然取れなくて、結局、長引いて10月くらいにその話が。なかなか話がつかなくて、やっとついたのが10月くらいだったんですね。

Int：話がつく、つかないって、なにか色々あったんですか？

O：連絡が先ず取れない。連絡が取れなくて、旦那の実家にも行ったんですけど、そっちには誰も居なくて。

Int：ご主人の実家って気仙沼ですか？

O：市内です。

Int：10月には、法律上もう離婚は成立して、どうですか？もう気持ちの整理はつきましたか？

O：そうですね、大分。

Int：それで、むしろ良かったって感じですかね？

O：そうですね。

Int：今、お住まいは、お父さんと、お母さんと？

O：自宅にですね。

Int：実のお兄さんってのは？

O：兄は、結婚してたので、近くにアパート借りてるんですね。

Int：さっき迎えに来たっていうのは、近くに居るからなんですか？

O：いや、前から別に暮らしてたんですけど、震災あった時は、お互い、奥さんの方も自分の実家の方に行っていて、兄も自分の実家の方にいたので。

Int：ああ、そうですか。そうすると、今は、お子さん入れると、4人暮らしですか？お爺ちゃん、お婆ちゃんとOさんと…。

O：はい、4人暮らしです。私と子どもと、両親の4人で。

Int：もう1回、戻りますけど、自宅に戻って、その後の生活はどうでしたか？戻った時は、ご両親と、お兄さんが居たんですよ。

O：もう、電気も全然駄目で、避難所に物資を貰いに行っても、家がある人がなんで貰いに来るんだって言われるのが現状だった。

Int：実際に直接言われましたか？

O：言われました。

Int：Oさんも行った事ありますか？

O：私と、私の父が一緒に行ったんですけど、「家族何人ですか？」って聞かれるんですね。「子ども1人と、大人3人」って言っても、2人分とか、1人分とかの、ほんと少ない量しか貰えなくて、「いや、家族このくらい居るんですけど」って言っても、「いや、家あるだけいいでしょ？」「皆、流されて何もいから、これで我慢して下さい」みたいな感じで。うちの父も、怒って言うのはおかしいんです

けど、「いや、こっちはもう、生まれたばかりで母乳は出さなきゃいけないし、もちろんミルクも手に入らないから、母乳に頼るしかないんだ」って言っても、「いや、まあ、家あるんで…」みたいな感じで、流されるっていうか、もう貰えないんです、全然。

Int：確かに、家が流された方も、大変は大変ですけどね。そうですか。そういうことを対応した人って、どんな方ですか？行政の人ですかね？

O：行政の方です。社会福祉協議会の方とか。

Int：それは、知ってる人なんですか？

O：知ってる人っていうか、もう、その地区に居る方なんですよ。

Int：その地区の人だから、もう分かっちゃうんですね。実際、物はなかった様子だったんですか？それとも、あるのに出し惜しみして…。

O：いや、ありましたね。全然、ありました。やっぱり顔見知りとか、その人の知り合いとかには、いっぱいあげてるんですよ。

Int：それは、見えてるところでですか？

O：そうです。こう並んでるじゃないですか。配給するのに並んで、例えば、その人の知り合いが来ましたってなったら、「じゃあ、これも持ってって」みたいな感じで、入れてあげて。でも私達の番になると、「もう、これで我慢して下さい」みたいな感じなので。

Int：本当。それは、酷い話ですね。お父さんが怒るのも無理ないですよ。物がなかったらしょうがないですけど。そんな事があるんですか、やっぱり。

O：ありましたね。

Int：じゃあ、ミルクの補給って結局、どうなったんですか？

O：おむつも、ミルクも産まれてから買おうって思って、最低限の量しか、用意して無かったんですよ。

Int：もう、数日分ぐらいね。

O：そうです。オムツも1、2カ月分とか、ミルクも1缶2缶ぐらいしか用意してなくて。それで、手に入らないので、「どうしよう…」ってなった時に、知り合いっていうか、私の同級生の友達が子ども用品店で働いていて、その社員の方にだけ、社販っていうかしてくれたのを持って来てくれたんですよ。

Int：震災の後に？

O：震災の後に。一般の方には売れないので、会社の方にだけ売るっていう事で、その友達が私の為に買ってきてくれて。

Int：赤ちゃんに必要なやつを？

O：そうです。肌着とか、上着とか買って持って来てくれて、大分助けられて。

Int：それは、いつ頃ですか？

O：震災あって1週間後ぐらいですかね。

Int：1週間後ぐらい、そんなにすぐやってくれたんですか。それでも、ミルクとかは、そんなにもちませんよね。どれぐらいもったんですか？

O：ミルクとかは、あまり飲ませない様にして、頑張って母乳を。

Int：できるだけ母乳にして、ミルクは保存しながら。

O：そうです。いつなくなるか分からないので。夜とかはミルク飲ませたりしてたんですけど、日中は、ほとんど母乳で頑張ろうと思って。だから、ミルクも結構もちましたね。

Int：結果的にはもったんですね。

O：はい。2缶ぐらい余ったんですよ。

Int：いつの時点でそのくらい余ったんですか？

O：1カ月くらい。

Int：経った時に、節約した事もあったけど、2缶ぐらい余ったと。その後は？

O：その後は、店も徐々に開いてたので、何缶までとかって買う制限はあったんですけど。

Int：普通に購入できる様になったんですね。

O：そうです。なので、もう大丈夫かなと。

Int：お子さんを育てるのに、相談とかできる人って、身近にいますか？あるいは、行政の窓口って利用したり、知ってたりしましたか？

O：知ってたんですけど、来る機会がやっぱないですね。

Int：行くとすれば何処でしょう？

O：保健センターです。子育て相談とかだと、そこぐらいしかやってないと思います。

Int：そうですか。震災直後は、確か、保健師さんが全戸訪問してるはずなんですけど、それは来ましたか？

O：保健師さんですか？いや、来てないですね。

Int：そうですか。確か、一応、行くなって事になったって聞いたんですけども。

O：来てない。

Int：ただ、出生の時、もしかして現住所でやられてると、実家だと、もしかすると漏れてるかも知れませんが。

O：そうなんです。来てないですね。震災後は来てないです。

Int：そうでしたか。お子さんは、順調に育ってますか？

O：育ってます。大丈夫です。

Int：そうですか、今1歳半くらい？

O：1歳7カ月です。

Int：1歳半健診は、受けましたか？何か言われましたか？

O：やりました。なにも言われてないです。

Int：そうですか。女のお子さんですね。体重が3000gちょっとぐらい。

O：3080gで生まれました。

Int：普通の大きさですね。満期でしたね。お子さんは、可愛いですか？

O：可愛いです。

Int：このアンケートの裏の方に、辛いついて感じの事が記載されてますけど、今でもそうですか？書いて頂いたのが7月頃でしたが、どうですか？

O：結構、地震っていうか、津波の夢とかは見ます。

Int：今でも見ますか？

O：見ます。

Int：それから、昼間でもパッと思い出したりしますか？その辛かったことを…。

O：揺れたりとかすると。

Int：今でもちょっとあるんですね。

O：その時の恐怖心が、ワッとありますね。子どももびっくりするんですよ。地鳴りの音がすると、も

う一瞬にして小っちゃくなって、屈んじゃうんですよ。なので、なんか分かるものがあるのかなと。

Int：お子さんからすると生まれたばかりだから、震災の記憶は、あまりないかも知れないけど、余震ですかね。

O：そうなんですかね、どうなんだろう。地震の揺れとか音とかすると。

Int：少し過敏な感じしますか？

O：凄いですね。炬燵の下に潜るぐらいなんです。

Int：そうですか。お子さんは、テレビかなんかで、そういうおっかない場面になった時、凄い怖がりますか？

O：テレビは、別に普通に見てて、地震とか、津波とかの映像も普通に見てるんですけど、地震が来るともう凄い、過剰反応で凄いです。

Int：テレビの中での地震とか、津波はあまり驚かない？

O：驚かないですね。

Int：そうですか。地震以外でもなにか怖がるものはありますか？

O：ないですね。

Int：1歳7か月。今日、お子さんはどうしてますか？

O：託児所に預けてるんですよ。私が仕事してるので。

Int：そうですか。普段から、預けてるんですね。

O：そうです。

Int：今、働いてるんですね。ずっと働いてたんですか？

O：そうです。

Int：そうすると、赤ちゃん産んだ時には、いわゆる産休だったんですか？

O：そうです。産休中だったんです。

Int：産休明けて、仕事にはいつ戻りましたか？

O：その職場は、流されたので、解雇されたんですよ。

Int：会社に解雇されて。

O：解雇されて、仮設ではやってるんですけど、前の給料払えないので、前の給料払える時まで、別の職場で働いてて欲しいっていう事で、今は別なところで働いてるんですよ。

Int：別のところって、その元の会社が紹介してくれたの？そうではなくて？

O：違います。自分で探して。

Int：そうですか。元の会社が、もし再建したら戻るんですか？

O：声が掛かれば戻ろうかな？

Int：どんな会社ですか？

O：飲食店ですね。

Int：再建しそうなんですか？わかんない？

O：分かんないですね。今、仮設ではやってるんですけど。

Int：仮設でやってるのね、そうですか。仮設だと、まだ雇う程の…。

O：そうです。収入とか、売りが上がらないのでっていう事だったので。

Int：今のお仕事は何ですか？

O：大島っていう離島の観光業で働いてて。

Int：そうですか。船で往復するんですか？